

10年間、ありがとう

幕末から明治・大正・昭和(30年代以前)の時代、地域でつくられた印刷物(雑誌・新聞・同人誌・詩誌・チラシ)は、古本屋さんや古物商が引き取らないような小冊子・写真等も地域の文化活動を伝える貴重な資料だと考え、その収集・保存・整理・閲覧のための窓口をつくりました。

繋げたい! 郷土の宝を次世代に

公益社団法人 南信州地域資料センター

連絡先 飯田市育良町2-2-5 南信州新聞社内
☎0265-22-3732 (出版局まで)
URL : http://www.minamishinshu.co.jp/center/

【第11期社員】…私達みんなが窓口です。ご連絡ください。
赤羽孝之・栗谷真寿美・池田健一・井野 隆・伊藤公平・伊藤朝人・伊東照男・今村朝志・今村正大・今村 衛・今村理則・若崎 愈・及川一正・岡田正彦・小田嶋正勝・鎌倉貞典・北原久雄・木下俊佐・久保田尚平・熊谷紀夫・熊谷好晴・熊谷吉見・見島悦夫・後藤拓磨・小林恭之助・小林 伸・小林諭史・酒井 洋・柴田忠昭・嶋岡成美・清水進夫・鈴木良徳・鈴木信孝・関谷邦彦・田内市人・高間成之・滝沢昌文・竹村雄次・田嶋 一・田中雅孝・田中正彦・千葉 恭・土屋昌亮・遠山信一郎・富田崇啓・中島正昭・仲田久志・中村洋次郎・西澤良貴・林 佐恵子・原 貞美・原 久・原田 望・平沢忠明・平沢充人・前澤 健・松澤一幸・宮下英美・宮島八東・村澤 聡・本島和人・元島知寿・森本信正・森山和幸・矢野昭彦・安岡健一・山内尚巳・山田忠勉・湯沢 厚・吉澤 健・吉澤幸輝 (50音順・敬称略)

捨てないで!!

寄付専用口座 目標金額 1,200万円
口座名:公益社団法人 南信州地域資料センター
振込先:みなみ信州農業協同組合 本所 普通0000462
振込先:飯田信用金庫 本店 普通0026440

※JAみなみ信州本所・支所および飯田信用金庫の本店・支店から、振り込む場合に限り、平成31年4月末日までの期間限定で、手数料は無料になります。ただし、飯田信用金庫での振込は専用紙を使用している場合に限り、ご存知の社員または事務局までご連絡ください。
※2,000円以上の寄付については個人は所得税・住民税、法人は法人税・法人地方税の控除の対象になります。後日事務局から送付する領収書を待診の上、確定申告の折、税務署窓口にご相談ください。優遇措置を受けるためには確定申告が必要です。



新しい拠点となる旧JA座光寺事業所

10年間、ありがとう

南信州地域資料センター

一般社団法人から公益社団法人へ

活字文化の崩壊と軌を一にするかのよう「地域の文化・宝は地域で守る」というコンセプトに賛同し、地域住民による地域資料の保存・活用というその企てに全面的に協力し、同センターの活動を紙面に告知するなど、全面的に支援を続けてきた。

次世代に遺したい成果・続々

80件から30件の寄贈があり、収集対象を近代以降の地域に関する図書や写真・文書等に絞って整理するが、すでに4万点を超えた。収集した郷土資料は整理・HP公開を続け、活用を促すために、図書を中心にHPで公開している。



着々と進む整理作業

また、飯田下伊那の面々のバックアップで、収集物の貴重さを訴える「資料渉猟余話」コラムが月2回程度掲載され、現在108回を超えた。他にも社員が漢詩コラム、寄稿など「南信州」紙面に書きやかしている他、郷土誌「伊那」や「信濃」など専門誌に執筆・寄稿の活動を続ける。

また、社員が独力でまとめた「伊那青年」伊那青年会編・全38冊を複製出版した他、その解説・ガイドとして「村澤隆著」中村肇と「村澤隆著」中村肇と

創設10周年

これならもよるしく

創設当初から予想をはるかに超える資料提供があり、資料損失の危機的状況に共有して下さった下伊那郡市民の関心の高さを強く感じるとともに、負託された責任の重さを改めて感じた。あっといふ間の10年でした。公益社団法人として認められた行政とどうも、応援していただいた皆様に感謝いたします。

また南信州新聞社には、活動の告知、資料提供者の情報、収集した資料をめぐるコラム「資料渉猟余話」の連載、事務局の設置など活動の推進役として全面的な協力をいただきました。利益を伴わない地道な活動への支援

和と当地の政治・経済

は、苦戦が続く新聞業界にあって、地元紙ならではの意気込みのなせることとお礼を申し上げます。そうした支援に心えらるべく、地域の宝を次世代に繋ぐ「活動の成果を10周年記念事業として」

「繋げたい! 郷土の宝を次世代に」

代表理事 吉澤 健



10周年記念事業「伊那青年」38冊の複製



ティータイムで情報交換

標額額は1200万円の期限です。JA飯田信用金庫・新卒、郡市民のみならず、南信州に送る活動の継続を望んでおり、広く飯田下伊那の郡市民に、寄付専用口座を設けました。4月末日まで。

信州高森支所の一部分が貸与された。運搬荷造り用の段ボール箱は飯田病院が提供。すべては経済的な得失を伴わないボランティアだからこそ続いたといえる。

「繋げたい! 郷土の宝を次世代に」

「次なる拠点を求めて」

「郡市民に協力を募る!」



ティータイムで情報交換

「次なる拠点を求めて」

「郡市民に協力を募る!」



社員がそれぞれの持ち場を担当

JAみなみ信州・しんきんも全面協力

拠点求めて 寄付を大募集

目標1200万円

現在の事務所兼倉庫はJAみなみ信州の配慮で貸与されて

いるが、JA座光寺事業所移転にともない、同センターに支所ごと譲渡の話が進んでいる。書庫も、蔵書増大にともなう収蔵スペースの狭隘化に対して、なんらかの手立てを打たねばならない時期にきているので、昨秋の総会で「郷土の宝を次世代に繋げる拠点として無理をしても取得したい」という意見で社員一致。目標金額1200万円を掲げて、拠点獲得運動を展開することになった。